

# かながわ畜産まめ知識

## 系統豚

### 系統豚とは

お互いに一定以上の血のつながりを持った豚の集団を「系統」、系統をつくることを「系統造成」、そしてその集団を構成するそれぞれの豚を「系統豚（けいとうとん）」と言います。

一般社団法人日本養豚協会に認定される系統は、一定規模（雄5、雌20）以上の維持群を持つ必要がありますが、群内の全ての豚に、造成を開始するとき基礎豚とした豚の血縁があることが条件になっています。血縁係数（血のつながり度合い）は同腹のきょうだい同士が50%、異母きょうだい同士が25%、いとこ同士が12.5%となりますが、系統は群内のすべての個体同士が異母きょうだいに近い血のつながりを持っている集団として造成するため、群内のどの豚も「能力」がほぼ揃っている状態になります。

この系統豚を肉豚生産に利用することにより、発育性や産肉性（肉をつける性質）が揃った肉豚を長期間にわたり生産することが可能となります。

系統造成は昭和44年度から全国的に取り組まれており、平成23年7月現在、全国でランドレース種13、大ヨークシャー種10、デュロック種6、バークシャー種3、合成系統豚1の計33種類の系統豚が維持されている他、14種類の系統豚が新たに作られています。



### 神奈川の系統豚

「ユメカナエル」ランドレース種 平成15年認定

繁殖性（子供をたくさん産む）と強健性（足腰が強くて丈夫）を重視して改良した系統豚です。

「カナガワヨーク」大ヨークシャー種 平成4年認定

産肉性に重点を置き改良した系統豚です。

血縁係数が高くなり平成23年に系統維持を終了しました。



ユメカナエルの繁殖豚(雌)



カナガワヨークの繁殖豚(雌)

### 系統豚の利用状況

ランドレース種と大ヨークシャー種を交配して生まれた交雑種雌豚は、両方の高い能力を受け継いでいるため、肉豚を生産する母豚に適しています。（※「豚の品種」のページ参照）

本県では生産者が系統豚を効率的に利用できるように、生産者団体である（社）神奈川県養豚協会を中心とした配布体制が整備されています。

畜産技術所では系統豚の維持・繁殖を担当し、県内養豚農家の交雑種雌豚生産の基礎豚としてユメカナエルを毎年約50頭供給しています。また、維持が終了したカナガワヨークについては、その血を引く大ヨークシャー種を供給しています。

系統豚を活用して生産された豚肉は「かながわ夢ポーク」としてブランド化され、販売されています。